

## 2020年度第1回キャリアパス講演会・懇談会

下記の通り、2020年度第1回キャリアパス講演会・懇談会を開催致します。

都市気象学の世界的権威で、屋外スケールモデル実験、都市乱流シミュレーション、都市集中豪雨シミュレーション等の研究を継続されてきた東京工業大学の神田 学 教授の講演を聞き、懇談して頂きます。学部1年生から大学院生まで、ぜひご参加ください。入退室は自由です !!



日時：2020年10月20日(火) 16:00～

会場：オンライン (右QRコードにより事前登録をお願いします)

話題提供者：神田 学 氏 (東京工業大学教授)

# 演題：東工大における気象研究・教育 と私のキャリアパス

趣旨：キャリアパスは十人十色なので、私の事例が参考になるかどうか疑わしいですが、現在(56歳)、自分の潜在能力を最大限に近く活かし切ってきたかな、とは思っています。自分でキャリアパスを意識したことはありませんが、以下のような3段階に整理されそうです。

### 知の基礎体力を磨く～学生時代 (スパルタ)

都市計画を学ぼうと東工大の土木工学科に所属したものの、学部で受けた「流体力学」の講義の面白さに衝撃を受け、その道に進みました。指導教官は大変厳しい方で、研究室所属から博士を取得するまでの間、寝ている時間以外はすべて研究に費やしました。講演では、仲間と乗りきったその激しい研究室生活と、その当時の脳味噌の溶けるような知の鍛錬が、現在に至るまで、研究・教育面で自分の強みになったことを述べます。

### 世界を広げる～准教授時代 (越境)

スパルタで過ごした8年間の反動か、山梨大学土木工学科の准教授として独立し、2年後に東工大に新設された国際開発工学科に転任するや、水を得た魚のごとく、越境行動に出ます。「越境」とは、教育学用語で、自分の活動範囲の枠を超えて、違う世界に足を踏み入れることを言います。流体力学をベースに、都市気象学を含む様々な研究テーマにチャレンジしました。その過程で、自分の人生に大きく影響を及ぼした方々との出会いがありました。講義は、専門研究と関係性の薄い数学・物理など雑多な講義をこなし、その多様な講義経験が教育者として大いに役立ちました。1年間のドイツ留学では、自分の世界などは数多く存在する世界の1つに過ぎないことに刮目させられた素晴らしい経験でした。

### 社会に還元する～教授時代 (充足)

国際学会を横浜で主催し、都市気象学で一定の成果を修め、46歳で教授に昇進した頃から、研究・教育の場が社会還元の方にシフトしてきました。目黒区の環境講座の講師を現在まで務め、様々な職歴を持つ多くの区民と知り合いました。東工大の教育改革のど真ん中に入り込み、新設から関わった国際開発工学科を改組し、融合理工学系を新設しました。研究も教育も、何の脈絡もなさそうな多種多様な経験に食欲に挑み、多くの回り道と失敗を繰り返しました。しかし、無駄な経験は1つもなく、それらが血肉となり、次の予期せぬキャリアにつながって行きました。



屋外都市気象モデル=通称COSMO 建築・気象・土木などからなる横断的研究チーム